

## 平成28年度 奈良県市町村看護職員協議会 全体研修会

平成29年1月16日  
市町村会館8階大研修室



片岡事務局長



地本会長

平成29年1月16日、市町村会館8階大研修室において、奈良県市町村看護職員協議会と奈良県国民健康保険団体連合会の共催で、平成28年度の全体研修会が開催された。開会にあたり奈良県市町村看護職員協議会の地本智美会長、奈良県国民健康保険団体連合会の片岡眞里子事務局長から、それぞれ主催者挨拶があった。

次に、奈良県在宅保健師の会「秋篠の会」の木村博子会長、岡本安代副会長から、在宅保健師の会による地域住民に対する健康づくりの支援、市町村支援、退職後の会員募集等について説明があった。



岡山代表

続いて、生活習慣病予防研究センターの岡山明代表から、「生活習慣病の重症化予防に向けた効果的な健康施策の展開についてーデータヘルス計画をどう活かすかー」をテーマに、次のとおりの要旨で講演があった。

データヘルス計画において、現状分析があれば必ずこれに対応したデータ分析が必要である。ま

た、そこから出てきた課題がある。単に項目ごとに見るのではなく、項目間の連なりを見ていくことが非常に大事である。良いデータヘルス計画というのは、現状評価・分析・課題・計画・評価指標が一つのまとまりになって読み取ることができるものである。項目が抜け落ちてしまっているものは、読んでいても必然性を感じられない。例えば「現状評価はあるが分析はない、課題はないが、事業はある」というようなものになってしまうと、分かりにくい計画書になってしまう。

また、データヘルス計画は分量が少なくてもよい。作らないより作ったほうがよい。作っているとということがはるかに大事だと、述べられた。そして、保険者努力支援制度を踏まえて、できるだけ早くデータヘルス計画の作成を進めたほうがよいと、強調された。